東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 4 月 23 日

配偶者間の相互責任

親愛なるムスリムの皆様。人間の歴史において最も古く、最も根本的な組織が、家庭です。家庭は集団の基盤の石です。だから集団の安定は家庭生活の安定によってくるものです。家庭におけるやすらぎを保持するためには、夫婦をはじめとした家族のメンバーが全て、それぞれに重要な役割を負っているのです。クルアーンの表現によるなら, お互いの覆いとなる夫婦は、相互の権利と責任を負っているのです。

イスラームの崇高な教えは、夫婦がお互いに対しどのように振舞うべきかを明らかにし、重要な提言を与えています。アッラーはクルアーンで、「あなたがたが、かの女らを嫌っても（忍耐しなさい）。そのうち（嫌っている点）にアッラーからよいことを授かるであろう。」（婦人章第１９節）「女は、公平な状態の下に、かれらに対して対等の権利をもつ。」（雌牛章第２２８節）と仰せられています。男性が女性に対し権利を持っているように、女性も男性に対し権利を持っていることを明言されているのです。

親愛なるムスリムの皆様。家庭におけるやすらぎと幸せの最良の例を、預言者ムハンマドの生涯に見ることができます。このお方は、その愛する妻たちのあらゆる種類の必要性を満たすため、可能な限りの努力を払われ、彼女たちの食べ物や衣類を保障し、合法な楽しみを彼女たちも味わうことができるよう努められたのです。ある時には、「お金を費やすことの中で最もよいのは、家族の人々のために行なうものである。」とおっしゃられました。またあるイードの日、モスクで、エチオピアの人々が見せていた剣の演技を観覧したがったアーイシャのため、その助けをされました。さらには、時にはアーイシャと共に競走を行なわれたこともありました。

聖アーイシャは、預言者ムハンマドについて語る時、「その手で服を縫い、靴をつくろい、ヤギの乳をしぼり、自分の仕事を自分で行なう」預言者であったとしています。多くの人が怠ってしまっている、あるいは自分にはふさわしくないと見なしているこれらの行為を預言者ムハンマドは行なわれ、それによってあたかも時代を超えて私たちにメッセージを送ろうとされているようです。

親愛なるムスリムの皆様。日々の生活の苦痛や苦労で疲れきった人が、逃れ、静けさを得ることのできる最もやすらいだ場の最たるものが、家庭です。もし夫婦や他の家族のメンバーが、求めているやすらぎを家庭で見出すことができないとすれば、それを他の場所で見出すことは決して可能ではないのです。憎悪や敵意に支配された家庭環境、地獄を思わせる空間に比べるなら、愛情と心からの親愛の情、理解によって支配されている家庭はあたかも天国のようではないでしょうか。

今日のフトバを、預言者ムハンマドのあるハディースで締めくくりたいと思います。「あなた方のうち、信仰において最も成熟した者とは、徳が最も優れている者である。最も尊い者とは、その妻によく振舞うものである。